



EMC/Wireless 最新情報

2022 年 10 月 19 日

世界市場への参入のために必要な要求事項を常に把握しておくことは、重要であると同時にますます困難になってきています。

本資料は、アメリカ、カナダ、欧州、日本およびその他国際規格に関する EMC/Wireless の最新規格・規制情報を掲載しております。世界の規制に関する UL Solutions の専門知識を活用し、ターゲット市場への迅速な参入および継続的な市場参入の実現にお役立てください。

概要

- EU | 英国(整合規格、SRD)、製造物責任指令、AI 指令、共通充電器
- アメリカ | KDB 更新
- カナダ | BETS-7、RSS-236、RSS-139、RSS-170、SRSP-513、SRSP-519、SPR-002
- 各種規格 | ETSI、AS/NZS、ECC、IEC

＊ 本コンテンツの知的所有権は UL Solutions にあります。無断での転用配布・放送は禁止されています。

＊ 本資料は、資料作成時点の情報を基に作成しています。本資料の情報に基づいて行った行為により生じたいかなる結果に関しても、弊社では責任を負いかねますので、予めご了承ください。また解釈に疑義が生じた場合は原文をご確認ください。

＊ 参照先のリンクは本資料が作成された時点でのリンクとなります。本資料が公開されたタイミング、またはダウンロードして頂いたタイミングによっては参照先のリンクが有効でない場合がございます。ご了承ください。

＊ 本内容は一般的な情報を提供するもので、法的並びに専門的助言を与えることを意図したものではありません。

EU | 英国(整合規格、SRD)、製造物責任指令、AI 指令、共通充電器

2022 年 9 月 27 日

英国において低電圧指令(欧州官報の 2022 年 5 月 4 日分)及び EMC 指令(欧州官報の 2022 年 4 月 7 日及び 2022 年 6 月 9 日分)の整合規格が 2022 年 10 月 26 日に更新されます。詳細は[ウェブサイト](#)をご参照ください。

2022 年 9 月 28 日

英国において短距離無線機器(SRD)の要求事項の改定が予定されています。詳細は[ウェブサイト](#)をご参照ください。

- 安全関連の高度道路交通システム (ITS) 用に、現在のスペクトル割り当てを 5875 MHz～5905 MHz から 20 MHz 拡張し、5875 MHz～5925 MHz をカバー
- 無線ローカル エリア ネットワーク (WAS/RLAN) を含むワイヤレス アクセス システムにおいて 5150 MHz～5250 MHz の使用を自由化し、屋外での使用を可能にする。また車内および電車内での使用も含めるように提案を修正し、電力制限を明確化。5170 MHz～5250 MHz の航空機利用も許可。5150 MHz～5250 MHz は動的周波数選択 (DFS) および送信電力制御 (TPC) の要件がないことを明確化
- UWB マテリアルセンシングデバイスの新しいカテゴリのライセンス不要の使用とより安全な低電力車両キーレスアクセスシステムを許可
- 24 GHz の自動車用短距離レーダー(SRR) 帯域において、他のヨーロッパ諸国と同様に、24.25 GHz～26.65 GHz での新たな承認を終了
- 870 MHz～874.4 MHz、917.3 MHz～918.9 MHz および 917.4 MHz～919.4 MHz 帯 (870/915 MHz 帯) の SRD アプリケーションに技術的および編集上の変更。これらの変更を実装するために、WT Act の § 122(4)で要求されるように、規制案について協議。必要な法改正について、まもなく協議を開始

2022 年 9 月 28 日

新たな製造物責任指令案と人工知能(AI)の開発事業者の民事責任に関する指令案が公表されています。概要は以下となります。詳細はウェブサイト ([製造物責任指令案](#)、[AI 指令案](#)、[Q&A](#)) をご参照ください。

- 現行の製造物責任指令(1985 年施行)は、消費者が欠陥のある製造物により損害を被った場合においてデジタル化対応が不十分
- 製造物責任指令案は、EU 域内で上市（市場投入）されるあらゆる製品に適用
- 適用対象となる製品には、ソフトウェアが含まれる
- 製品の欠陥がデジタルサービスや、サイバーセキュリティ対応などのソフトウェアのアップデートあるいはその欠如による場合にも、製造事業者が責任を負うことを明確化
- 製造物責任を負う事業者には、従来の経済担当者に加えて、オンライン上の販売事業者も含まれる
- 上市済みの製品に実質的な改造を施した事業者も製造物責任を負う
- 実効的な救済を確保するために、被害者は裁判所に対して製造事業者などに情報開示を請求することが可能：立証責任は被害者側にあるが、一定の条件で立証責任が緩和される。裁判所が技術的な複雑性などにより製品の欠陥や、欠陥と損害の因果関係の立証が過度に困難であると判断した場合、裁判所は製品の欠陥や損害との因果関係を推定することが可能

- AI の民事責任に関する指令案は、製造物責任指令案を補完
- 製造物責任指令案は AI システムも適用対象としているが、AI システムはその複雑性やブラックボックス問題により、欠陥や因果関係を立証することが特に困難かつ高額であることから、被害者の立証責任において因果関係の推定を導入し、高リスクの AI システムの開発事業者に情報開示請求を容易するための規定を設定

2022 年 10 月 4 日

2021 年 9 月 23 日に提案が提出された共通充電器に対して、賛成 602 票、反対 13 票、棄権 8 票により承認が進められたことが公表されています。これに基づき、2024 年末までに USB Type-C ポートを用いる充電が標準となります。またこの義務は携帯電話、タブレット、カメラなどに加えて、2026 年春にはラップトップコンピュータなどに拡大されます。詳細は[ウェブサイト](#)をご参照ください。

アメリカ | KDB 更新

2022 年 9 月 20 日

ドラフト KDB 447498 の修正が以下 3 か所行われています。詳細は[ウェブサイト](#)をご参照ください。

1. 表 B.1 の 100 MHz 未満の除外閾値の式の誤記
2. B.3 項に平滑化パラメータが与えられていなかったための修正
3. 非意図的放射器が意図的放射に寄与する可能性について遠方界の考慮

参照：[Errata Sheet 2022-09-20](#)

2022 年 9 月 23 日

【[388624](#)】 Pre-Approval Guidance (PAG)

※ D02 v18r02 は、v18r01 を置き換え。「DUTFACT」の RF 曝露適合を取得するための 100% 未満デューティファクターの明確化。例えば、デューティファクターが固定（最大値、100 %等）の場合 PAG は不要、しかし、Duty=10 %をもとに 20 %をその 2 倍とすることは不可

カナダ | BETS-7、RSS-236、RSS-139、RSS-170、SRSP-513、SRSP-519、SPR-002

2022 年 9 月 19 日

テレビ放送信号を受信できる装置の技術基準と要件である BETS-7 Issue 4 のドラフトが公開されています。主な変更点は以下となります。詳細は[ウェブサイト](#)をご参照ください。

- 適用される技術基準の最新バージョンおよび関連する変更を更新
- ATSC 3.0 チューナーを搭載した機器に対する追加要件
- カテゴリー II 機器に関連する自己適合宣言(SDoC)要求に合わせてテストとラベル付けを更新
- 必要に応じて、編集上の変更と明確化

2022 年 9 月 21 日

シチズンバンド (CB)、26.960 MHz～ 27.410 MHz で動作 する無線装置の認証要件、RSS-236 Issue 2 が発行されています。主な変更点は以下です。詳細は[ウェブサイト](#)をご参照ください。

1. § 4.1 の表 1 を変更
2. § 3.5 および 4.5 の測定方法を ANSI C63.10 から ANSI C63.26 に変更
3. § 4.3 アンテナ要件削除
4. § 4.8 を変更し、新しい FM オーディオ エミッション F3E を追加
5. § 4.8、4.9、および 4.10 から A1D、H1D、J1D、R1D への参照を削除
6. § 4.10 の不要なエミッションに基準帯域幅を追加
7. 必要に応じて、編集上の変更と明確化

2022 年 9 月 29 日

1710 MHz ～1780 MHz および 2110 MHz ～2200 MHz の帯域で動作する高度なワイヤレス サービス機器に対する要求：RSS-139、移動衛星サービス帯域で動作する移動地球局および補助地上コンポーネント機器：RSS-170 が更新されています。以下概要です。

[Publication of RSS-139 Issue 4](#)

1. 周波数範囲 2180 MHz～2200 MHz を追加し、それに応じてタイトルを更新
2. 使用される用語を明確にするために定義を追加
3. モバイル機器識別子と国際モバイル機器識別番号に関連する要件は、不要になったため削除
4. 以前、帯域 1710 MHz～1780 MHz および 2110 MHz～2180 MHz における Advanced Wireless Services (AWS) の技術要件：SRSP-513、2000 MHz～2020 MHz および 2180 MHz～2200 MHz の帯域で動作する移動衛星サービス (MSS) システムの補助地上コンポーネント (ATC) の技術要件：SRSP-519 に含んでいた内容を組み込み
5. 現在の RSS 構造を反映
6. 必要に応じて、編集上の変更と明確化

[Publication of RSS-170, Issue 4](#)

1. SMSE-009-20(Decision on Globalstar Canada's Application for Ancillary Terrestrial Component (ATC) Authority in the 2.4 GHz Band (2483.5-2500 MHz))に規定されていた、補助地上コンポーネント (ATC) 機器の動作のための要求を組み込み
2. 表 1 と表 2 の移動地球局と ATC 機器の周波数帯域をそれぞれ更新
3. RSS-139 に含まれるようになったため、ATC 機器帯域 2180 MHz～2200 MHz を削除
4. 現在の RSS 構造を反映
5. 必要に応じて、編集上の変更と明確化

またそれに合わせて以下が更新されています。

[SRSP-513 — Technical Requirements for Advanced Wireless Services \(AWS\) in the Bands 1710–1780 MHz and 2110–2180 MHz](#)

1. AAS の展開を容易にするための技術的なルールを組み込み
2. 必要に応じて、編集上の変更と明確化

[SRSP-519 — Technical Requirements for the Ancillary Terrestrial Component \(ATC\) of Mobile-Satellite Service \(MSS\) Systems Operating in the Bands 2000–2020 MHz and 2180–2200 MHz](#)

1. 2180 MHz～2200 MHz 帯域に関する規定が含まれているため RSS-139 Issue 4 を参照
2. 2000 MHz～2020 MHz および 2180 MHz～2200 MHz の両方の帯域がダウンリンクに使用されることを明確化
3. -100.6 dBW/4 kHz(eirp)の帯域外放射を、地球局オペレータとの調整協定を確立する要件として追加
4. アクティブ アンテナ システムの展開を容易にするための技術規則を組み込み
5. 他の SRSP の形式に合わせて、ドキュメント全体で編集上の更新

2022 年 10 月 4 日

昨年末にドラフトが公表されていた RSS-102 の付属文書である SPR-002 Issue 2 が発行されました。移行期間は 1 年間となっています。主な変更点は以下となります。詳細は[ウェブサイト](#)をご参照ください。

- i. 対象範囲が拡大され、次のものが含まれる
 1. 神経刺激と熱影響の両方を防止するための RF 曝露制限に対する評価
 2. 参照レベルと基本制限の両方に対する評価
 3. 測定ベースの計算評価
- ii. 参照レベルに対する測定ベースの評価に提供される要件は、新しいデバイスや技術に対応するために最新化
- iii. 参照レベルに対する評価における四肢曝露の緩和係数の改訂
- iv. IEC/IEEE 62704-1 および 62704-4 は、計算評価アプローチの基礎の一部として使用されており、参照として組み込み
- v. 携帯機器と電気自動車の充電に重点を置いて、ワイヤレス電力伝送の実装に関する具体的かつ詳細な要件を提供する Annex を追加

各種規格 | ETSI、AS/NZS、ECC、IEC

2022 年 9 月 28 日

[ETSI TS 103 788 V1.1.1 \(2022-09\)](#) Short Range Devices (SRD) and Ultra Wide Band (UWB); Measurement techniques and specification for RX conformance tests with target simulator

2022 年 10 月 4 日

[ETSI EN 301 489-54 V1.1.1 \(2022-10\)](#) ElectroMagnetic Compatibility (EMC) standard for radio equipment and services; Part 54: Specific conditions for fixed ground based aeronautical and meteorological radars; Harmonised Standard for electromagnetic compatibility

2022 年 10 月 7 日

[AS/NZS 61000.6.2:2022](#) Electromagnetic compatibility (EMC) Generic standards - Immunity standard for industrial environments (IEC 61000-6-2:2016 RLV (ED. 3.0) MOD)

[Draft ETSI EN 301 908-1 V15.2.0 \(2022-10\)](#) IMT cellular networks; Harmonised Standard for access to radio spectrum; Part 1: Introduction and common requirements Release 15

2022 年 10 月 10 日

[Draft ECC Report 349](#) Unwanted emissions of IRIDIUM NEXT satellites in the band 1610.6-1613.8 MHz, monitoring campaign of November 2020 to May 2021

[Draft ECC Report 350](#) [attachment 1 to draft ECC Report 350](#) Radiodetermination equipment for ground based vehicular applications in 77-81 GHz

[Draft ECC Report 351](#) [FS vs Exterior](#) [FS vs In-cabin](#) [EESS vs Exterior](#) [EESS vs In-cabin](#) UWB radiodetermination applications within the frequency range 116 GHz to 148.5 GHz for vehicular use

2022 年 10 月 13 日

[IEC 61000-4-11:2020/COR2:2022](#) Corrigendum 2 - Electromagnetic compatibility (EMC) - Part 4-11: Testing and measurement techniques - Voltage dips, short interruptions and voltage variations immunity tests for equipment with input current up to 16 A per phase

- ※ 5.3 Voltage variations Corr1 で追記した Optional を削除
- ※ 7 Test set-up の 3 種類の試験のセットアップ定義の言い回し変更(セットアップが定義されていることの明確化)
- ※ 9 Evaluation of test results の注記の変更(Voltage variation がオプションではないとしたための言い回し変更)

2022 年 10 月 14 日

[ETSI TR 103 877 V1.1.1 \(2022-10\)](#) Task Force for European Standards for IMT-2000 (MSG); Technical Parameter selection in ETSI EN 301 908 Base Station (BS) Harmonised Standards

< 上記の EMC/Wireless に関するお問合せ先 >

担当: [コンシューマー機器事業部](#) 橋本

